

学校内子育てひろば開設 ガイドライン

令和元年7月
山口県こども政策課

目 次

第 1 章 学校内子育てひろばとは	
1 学校内子育てひろばとは	2
2 開設のメリット	2
3 開設するにあたって	2
第 2 章 開設準備	
1 実施体制の構築	3
(1) 実施主体	3
(2) 実施体制の構築	3
2 学校や教育委員会との調整	5
3 内容の検討	5
(1) 授業を活用する場合	6
(2) 授業を活用しない場合	7
4 必要な物品や設備	8
(1) 必要な物品や設備	8
(2) 物品の調達	8
5 講師等の依頼	9
6 財源の確保	9
7 参加者の募集	10
第 3 章 開設にあたっての留意事項	
1 乳幼児の安全確保	11
(1) 研修の実施	11
(2) 環境の整備	11
(3) 食物アレルギー対策	12
(4) 緊急時の対応	12
(5) 保険への加入	13
2 生徒への配慮	13
第 4 章 開設準備及び当日のポイント	
1 事前準備	13
2 会場設営	14
3 開設時の対応	15
4 開設後の対応	15
第 5 章 事例紹介	16
学校内子育てひろば開設チェックシート	18

第1章 学校内子育てひろばとは

1 学校内子育てひろばとは

現代社会では、核家族化や地域のつながりの希薄化などにより、若い世代は家庭や子どもをもつことの楽しさや素晴らしさを身近に感じる機会が少なくなっています。

そこで、山口県では、中学校や高等学校の余裕教室などを活用して、乳幼児親子が集う「学校内子育てひろば」の開設を支援し、乳幼児との交流による若者のライフデザインの形成を応援しています。この取組は、山口県健康福祉部と山口県教育庁が連携し、県内全域に広がるよう支援しています。

学校内子育てひろば

中学校や高等学校の余裕教室やコミュニティルームなどにおいて、開設される「子育てひろば」のこと

2 開設のメリット

学校内子育てひろばの開設は、乳幼児との交流による若者のライフデザイン形成の応援を目的とした取組ですが、中高生のほか、子育て家庭や学校にも様々なメリットがあると考えられています。

中高生	<ul style="list-style-type: none">・家庭や子どもをもつことの意義や命の大切さを理解・コミュニケーション能力の向上
子育て家庭	<ul style="list-style-type: none">・中高生や地域住民を含めた多世代交流の推進・子育てに関する孤立感の解消
学校	<ul style="list-style-type: none">・コミュニティ・スクールや家庭教育支援の取組の充実・家庭科や総合的な学習（探究）の時間など授業の充実

3 開設するにあたって

学校内子育てひろばの取組は、中高生や子育て家庭、学校に対して、多面的な効果が期待できる取組ですが、開設するにあたっては、継続的な取組となるよう、関係者にとって負担感の少ない仕組みを作ることが重要です。このため、地域の子育て支援団体や地域子育て支援拠点など既存の組織や制度を有効に活用することが大切です。

ポイント

継続的な取組となるよう、既存の組織・制度を活用し、関係者にとって負担感の少ない仕組みを作る

第2章 開設準備

1 実施体制の構築

(1) 実施主体

学校内子育てひろばの開設は、学校や地域の実情に合った形で進める必要があるため、地域で活動し、地域の実情に精通している既存の子育て支援団体や教育関係団体が実施主体になることが望ましいといえます。特に、乳幼児親子が定期的集う「子育てサークル」や「地域子育て支援拠点」の開催場所を、一時的に、学校内に置き換えることができれば、負担感の少ない形で開設することが可能になります。

なお、この取組は、子育て支援と教育の二つの分野にまたがる取組であり、関係者も多数となるため、ひろば開設が軌道に乗るまでの間は、市町の子育て支援担当課などが主導して、関係者との調整や進行管理などをする必要があります。

実施主体になることが想定される子育て支援団体等

乳幼児親子が定期的集う「子育てサークル」や「地域子育て支援拠点」を運営している地域の子育てサークル、子育て支援団体、母子保健推進協議会、NPO法人など

実施主体になることが想定される教育関係団体等

家庭と地域・学校をつなぐ家庭教育支援チームや、保護者や地域の方々が参画して学校づくりに取り組む学校運営協議会、学校支援ボランティアなど

(2) 実施体制の構築

学校内子育てひろばの開設にあたっては、実施主体となる団体メンバーのほか、地域の子育て支援関係者や学校関係者、自治体職員なども参画し、地域ぐるみの実施体制を構築することが望ましいといえます。その際は、各団体や関係者が専門性を生かしながら役割を分担し、特定の関係者に負担が偏らないようにすることが重

要です。実施体制の構築や運営にあたっては、市町の子育て支援担当課などが調整役となり、円滑に進めることが期待されています。

想定される構成メンバー	
子育て支援関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサークル、子育て支援団体、母親クラブ ・母子保健推進協議会、民生委員児童委員協議会 ・NPO法人 <p style="text-align: right;">など</p>
学校関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・開設校の校長、教頭、家庭科教諭 ・学校運営協議会、学校支援ボランティア ・家庭教育支援チーム <p style="text-align: right;">など</p>
行政関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援担当課、地域子育て支援拠点 ・母子保健担当課（保健師） ・教育委員会 <p style="text-align: right;">など</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の親子 ・地域の医療機関（医師、看護師） ・地域の企業 <p style="text-align: right;">など</p>

【イメージ図】



⇒生徒は家庭科の授業や昼休みの時間等を活用して乳幼児親子と交流

2 学校や教育委員会との調整

学校内に子育てひろばを開設するには、学校、特に校長の理解や協力が必要です。

過去に、生徒と乳幼児親子の触れ合い体験など同様の取組を実施した経験がある場合を除き、子育て支援関係者が、突然学校を訪問し、ひろば開設の打診をしても、なかなか話が前に進まないのが現状のようです。

そこで、まずは、地元の子育て支援担当課に相談し、教育委員会との連携を図りましょう。教育委員会であれば、校長の理解を得やすいなど開設に前向きな学校の情報をもっています。実施体制を構築する際には、子育て支援担当課が主導し、調整役を担うことを踏まえ、子育て支援担当課に教育委員会との橋渡しや調整をお願いすることがベストといえるでしょう。

また、教育委員会や学校へ説明する際には、ひろばの開設は、地域ぐるみの取組であり、「コミュニティ・スクール」や「家庭教育支援」の取組を充実させるものであることを説明すると、より前向きな気運を作り出すことができるでしょう。

ひろば開設と連携できる教育委員会の取組

コミュニティ・スクール	学校、保護者、地域の代表等からなる「学校運営協議会」を設置した学校のこと。学校、家庭、地域が連携・協働して子どもたちの学びや育ちを支援する仕組み ※山口県内の公立中学校の導入率は100%で全国1位
家庭教育支援	家庭教育を行う主体である保護者に対する支援(学習機会、情報、交流の場の提供や相談対応等)のこと

3 内容の検討

学校内に子育てひろばを開設することが決まったら、どのような形で生徒と乳幼児親子との交流の場を設けるかを考える必要があります。家庭科や総合的な学習(探究)の時間など授業の一環として実施するほか、昼休みなど授業以外の時間を活用して交流の場を設けることも考えられます。いずれにしても、校長をはじめとした学校側の意向をしっかりと把握し、それに沿った形で内容を検討することになります。

また、開催時期の検討にあたっては、インフルエンザの流行期(1月、2月)を避けるなどの考慮も必要です。

(1) 授業を活用する場合

家庭科や総合的な学習（探究）の時間など授業を活用する場合、学校のカリキュラムに合うように内容を検討する必要があります。このため、授業の「対象学年」、「開催回数」、「開催時期」、「希望する内容」などを学校からしっかりと聞き取りましょう。

また、授業の中で「命の教育」や「赤ちゃんの抱き方」などを取り上げることも考えられるため、場合によっては、市町母子保健担当課の保健師による出前授業が必要になることもあります。

内容の検討にあたっては、学校の意向に合わせながら、実施体制の中で無理なく実現できる授業内容にする必要があります。

また、授業の前後に、親子同士が触れ合う「交流ひろば」を設けたり、子育てに役立つ知識を学べる「子育て講座」を開催したりするなど、授業と連携しながら、育児を応援する様々な取組を実施することも効果的です。

授業を活用する場合	
事前に把握すべき項目	授業の対象学年、開催回数、開催時期、開催時間、開催場所、希望する内容、保健師等の派遣の要否 など
授業内容の例	<ul style="list-style-type: none"> ・（生徒が制作した）絵本の読み聞かせ、おもちゃ遊び ・（育児についてざっくばらんに話し合う）親との座談会
授業と連携した取組例	<ul style="list-style-type: none"> ・親子同士が触れ合う「交流ひろば」 ・子育てに役立つ知識を学べる「子育て講座」 ・育児についてざっくばらんに話し合う「子育て座談会」

【授業連携型の例】 ～家庭科授業の中で乳幼児親子との触れ合い体験

10 : 00	10 : 40	11 : 30
交流ひろば OR 親子向け 子育て講座	【家庭科授業】 3時間目（50分） 生徒と乳幼児親子との 触れ合い体験	

(2) 授業を活用しない場合

授業を活用しない場合は、昼休みなど休み時間を活用して、希望する生徒が乳幼児親子と触れ合うことになるでしょう。生徒と触れ合う休み時間の前後には、「交流ひろば」や「子育て講座」など育児を応援する様々な取組を実施すると効果的です。

授業を活用しない場合	
事前に把握すべき項目	対象学年、開催回数、開催時期、開催時間、開催場所、希望する内容、保健師等の派遣の可否 など
連携した取組例	<ul style="list-style-type: none"> ・親子同士が触れ合う「交流ひろば」 ・子育てに役立つ知識を学べる「子育て講座」 ・育児についてざっくばらんに話し合う「子育て座談会」

【昼休み交流型の例】 ～昼休みに乳幼児親子との触れ合い体験（生徒は自由参加）

10 : 30	11 : 30	12 : 30	13 : 00	13 : 30
親子向け 子育て講座	ランチタイム	交流ひろば	【昼休み時間】 生徒と乳幼児親子 との触れ合い体験	

【取組例】



[七夕飾りづくり]



[手作り絵本の読み聞かせ]



[動物との触れ合い体験]



[子育て体験の聞き取り調査]



[手遊び]



[折り紙]

4 必要な物品や設備

(1) 必要な物品や設備

学校内子育てひろばの内容が決まったら、開催に必要な物品や設備について整理する必要があります。また、参加者に持参してもらう物についても整理しておくといでしょう。

必要な物品や設備の例	
設備	<ul style="list-style-type: none">・参加親子用駐車場、表示板（会場の案内表示）・授乳コーナー、おむつ替えコーナー・音楽の再生機器、マイク、冷暖房
物品	<ul style="list-style-type: none">・床用マット、机、椅子・おもちゃ、絵本、音楽（CD）、壁飾り・衛生用品（おむつ、おしりふき、アルコール消毒液、ティッシュペーパー）、バスタオル・救急セット（体温計、消毒液、ガーゼ、ばんそうこう、マスク、冷却シート）・参加者名簿、文房具（油性ペン、ボールペン、はさみ、名札用シール、布ガムテープ、養生テープ）、ゴミ袋
物品（参加親子に持参してもらう物）	<ul style="list-style-type: none">・室内履き（親子それぞれ）・飲み物、おやつ・タオル、おむつ、着替え

(2) 物品の調達

学校内子育てひろばは、定期的・継続的な取組となるよう、関係者の負担をできるだけ少なくする必要があるので、必要な物品や施設について、まずは、既存のものを活用することを考えましょう。実施体制に参加している構成団体（学校、市町、子育て支援団体など）や、公民館・児童館など公の施設が所有している物品を借りることを優先し、それが困難な場合に、必要最小限の物品を購入するのがよいでしょう。

物品等の調達先の例	
学校	<ul style="list-style-type: none">・授乳コーナー、おむつ替えコーナー・音楽の再生機器、マイク、冷暖房・机、椅子、表示板

市町（児童館、地域子育て支援拠点含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・床用マット、授乳コーナー、おむつ替えコーナー ・おもちゃ、絵本、音楽（CD）、壁飾り ・救急セット、文房具
子育て支援団体	<ul style="list-style-type: none"> ・床用マット ・おもちゃ、絵本、音楽（CD）、壁飾り ・衛生用品、救急セット、文房具

5 講師等の依頼

学校内子育てひろばでの実施内容によっては、外部の方に講師等をお願いしなければならないことも想定されます。例えば、絵本の読み聞かせや、歌遊び・リズム遊びが得意な方、「子育て講座」でテーマに沿った講話ができる方などです。講師等を依頼する際には、ひろば開設は地域ぐるみの取組であることを踏まえ、地域内の方から優先的に当たるのがよいでしょう。

講師の例	依頼先の例
<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ、歌遊び・リズム遊び ・絵本作り、おもちゃ作り、お菓子作り ・「子育て講座」の講師 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館・児童館のスタッフ ・元保育士、幼稚園教諭、教職員 ・ボランティア団体、サークル ・地域の有志

6 財源の確保

学校内子育てひろばの開設にあたり、必要最小限の物品購入や保険加入のためには、ある程度の資金が必要になります。実施主体の経済的負担は最小限に抑えるべきですが、既定の予算ではどうしてもまかなえない場合は、新たに財源を確保する必要があります。ひろば開設にあたり、以下の助成金等の活用が検討できるでしょう。

活用が検討できる助成金等	
やまぐち子ども・子育て応援ファンド（山口県）	[対象] 県内のNPO法人など [内容] 県内で行われる子育て支援活動など [金額] 10万円以内 [補助率] 10/10
ひとつづくり・まちづくり団体支援事業（山口県ひとつづくり財団）	[対象] 社会教育関係団体、NPO法人など [内容] ひとつづくり・まちづくりに繋がる継続的な活動 [金額] 30万円以内 [補助率] 1/2

きらめき活動助成事業 (山口きらめき財団)	[対象] 継続的に活動を行っている県民活動団体 [内容] 公益的な活動 (分野は問わない) [金額] 10万円以内、50万円以内 [補助率] 2/3
地域少子化対策重点推進交付金 (内閣府)	[対象] 都道府県、市町 [内容] 子育てに温かい社会づくりの取組など [補助率] 1/2 など

7 参加者の募集

学校内子育てひろばの開設が決まったら、参加する乳幼児親子を募集する必要があります。募集にあたっては、定員、事前申し込みの要否、校区外からの参加の可否、子どもの対象年齢などを事前に決めなければなりません。また、ある程度の参加者数を望む場合には、募集チラシの作成などにより積極的に広報をする必要があります。

参加者を募集するにあたっての検討項目	
定員の有無	開催場所や授業との連携の都合上、定員を設ける必要がある場合もあります。
事前申し込みの要否	定員を設ける場合や材料等の事前準備が必要な場合は、事前申し込み制にするとよいでしょう。
校区外から参加の可否	特に校区にこだわりがない場合や校区内だけでは必要な人数が集まりそうにない場合は、対象エリアを広げるとよいでしょう。
子どもの対象年齢	授業やひろばでの実施内容によっては対象年齢を限定する必要がある場合もあります。
募集の方法	募集チラシを作成し、回覧板、公の施設 (公民館や児童館、保育所、子育て支援拠点など) への掲示、子育て支援団体や前回参加者への配付 など
募集チラシの記載内容	日時、場所、内容、対象年齢、募集人数、申込方法、申込締切日、持参物、授乳・おむつ替えコーナーの有無、駐車場の有無、主催者、連絡先 (当日も) など

第3章 開設にあたっての留意事項

1 乳幼児の安全確保

ひろば開設にあたっては、参加する乳幼児の安全確保が何よりも重要です。「乳幼児との接し方」について学んだスタッフによるサポートや、けがを防止するための環境の整備など、しっかりとした安全確保対策をとりましょう。また、万が一の場合に備え、緊急時の対応をあらかじめ整理するほか、保険への加入を検討しましょう。

(1) 研修の実施

当日参加するスタッフに対して、「乳幼児との接し方」に関する研修を実施するなど、乳幼児の安全確保について学ぶ機会を設けましょう。その際、スタッフには、子育て支援団体や母子保健推進員、母親クラブなど様々な立場の人がいることを考慮し、安全確保に関すること以外にも、事業の趣旨や親と接する際の注意事項など、対応の基本的な方向性についても関係者間で共通認識を図ることが重要です。

また、当日は、乳幼児と触れ合う中高生に対しても、「乳幼児の抱っこの仕方」など必要最小限の注意事項を説明する必要があります。

研修の例	
スタッフ向け	「乳幼児との接し方」など安全確保に関することに加え、「親との接し方」など基本的な方向性を関係者間で共有する
中高生向け	スタッフが「乳幼児の抱っこの仕方」など必要最小限の注意事項を説明する

(2) 環境の整備

乳幼児のけがなどを防止するため、会場となる教室など環境面での安全対策も必要です。例えば、テーブルの角や電気コンセントなどには必要に応じてカバーをするほか、夏場に実施する場合は、熱中症対策なども必要です。

環境整備	
具体的な例	<ul style="list-style-type: none">・ テーブルの角や電気コンセントなどには必要に応じてカバーをする・ 壊れやすいものは別の部屋に移動する・ 室内の温度管理をする

参考になる通知等	『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』（内閣府） http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/meeting/index.html#kyouiku_hoiku
----------	--

（３）食物アレルギー対策

学校内子育てひろばでの実施内容によっては、中高生が離乳食やおやつを作り、乳幼児親子と試食するなど、食事を提供することも考えられます。その際には、事前にメニューや材料を明示し、食物アレルギーをもつ乳幼児親子や生徒が誤って食べることがないように細心の注意を払いましょう。

食物アレルギー対策	
具体的な例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児親子の募集時にメニューや材料を明示し、アレルギーの有無について事前に把握する ・ ひろば当日もメニューや材料を説明する
参考になる通知等	『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』（内閣府） http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/meeting/index.html#kyouiku_hoiku

（４）緊急時の対応

けがなど事故の発生に備え、緊急時の対応体制を事前に整えておく必要があります。具体的には、緊急時の役割分担や連絡先リストを整備することなどが考えられます。

緊急時の対応体制の整備例	
役割分担の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係先へ連絡するスタッフ ・ 病院等へ同行するスタッフ ・ 現場に残り運営を続けるスタッフ など
連絡先リストの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関リスト（会場近隣、診療科別） ・ 関係機関リスト（自治体、警察等） など

(5) 保険への加入

けがなど事故の発生に備えて、レクリエーション保険に加入することを検討しましょう。基本的には、乳幼児親子とスタッフの加入についての検討ですが、場合によっては、中高生の加入についても検討する必要があります。中高生は、あらかじめ学校で保険に加入していることが多いため、その補償内容等を確認した上で検討するようにしましょう。

2 生徒への配慮

実施にあたっては、生徒の個別の事情や多様性に配慮するとともに、特定の価値観を押し付けたり、プレッシャーを与えたりすることのないよう注意しましょう。価値観が多様化する中、結婚や子どもをもつことは人生の選択肢の一つであり、その選択は個人の自由な意思決定に基づくものでなければならず、「結婚は必ずした方がよい」などといった特定の価値観を個人に押し付けたりすることがあってはなりません。

第4章 開設準備及び当日のポイント

1 事前準備

ひろば開設の時期や場所、内容などが決まったら開設に向けた準備を進めましょう。特に、参加者募集に関すること、物品調達に関すること、役割分担については、早めに決定し、すぐに取りかかるようにしましょう。

事前準備の例	
参加者募集	<ul style="list-style-type: none">・チラシ作成、配布・参加者のとりまとめ、参加者名簿の作成
物品調達	<ul style="list-style-type: none">・借入物品、借入先、運搬方法、担当者一覧の作成・購入物品、購入先、担当者一覧の作成
役割分担	<ul style="list-style-type: none">・役割分担表（事前準備）の作成・役割分担表（当日）の作成
タイムスケジュール	<ul style="list-style-type: none">・タイムスケジュール（事前準備）の作成・タイムスケジュール（当日）の作成
その他	<ul style="list-style-type: none">・会場レイアウトの作成・保険の加入 など

2 会場設営

ひろば開設当日は、オープンより少し早めに集合し、スタッフみんなで協力しながら会場設営をしましょう。設営にあたっては、安全対策に配慮して環境を整備するとともに、緊急時の避難経路をふさがないように注意しましょう。

また、参加者がスムーズに移動できるよう、駐車場やトイレ、ひろば会場周辺などには、わかりやすい案内表示や経路表示を設置するとよいでしょう。

学校の協力のもと生徒も参加し、効率よく会場設営している例もあるようです。

会場設営の例	
案内表示や経路表示	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場、ひろば会場、トイレ ・ おむつ替えコーナー、授乳コーナー
事前確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時の避難経路（ふさがないように注意） ・ 原状復帰しやすいように設営前の状況を撮影
会場設営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受付、床用マット、おもちゃ、壁飾り ・ おむつ替えコーナー、授乳コーナー ・ 危険箇所のカバーや壊れやすいものの移動

※ おもちゃや壁飾りは、乳幼児の気を引くのに有効ですが、たくさん準備しようとすると関係者の負担が大きくなります。会場へ搬入するものを精査し、必要最小限の量にとどめておくことを検討してもよいでしょう。

【会場設営の例】



[案内表示]



[受付 (名簿/名札シール)] [会場 (マット/おもちゃ/壁飾り)]



[安全対策 (危険物カバー)] [おむつ替え/授乳室 (会場内)] [おむつ替え/授乳室 (別室)]



3 開設時の対応

ひろば開設にあたっては、参加親子に楽しんでもらえるよう、温かく迎え入れ、安全で快適な環境を提供できるようサポートしましょう。また、乳幼児親子と中高生が円滑に交流できるよう「つなぎ役」になることも重要です。

開設時の対応例	
基本的なスタンス	<ul style="list-style-type: none">・参加親子や生徒が楽しめるよう温かく迎え入れる・参加親子や生徒が話しかけやすい雰囲気を作る
乳幼児親子への対応	<ul style="list-style-type: none">・安全で快適に過ごせるようサポート・他の親子や生徒と円滑に交流できるようサポート
生徒への対応	<ul style="list-style-type: none">・乳幼児と円滑に交流できるようサポート

4 開設後の対応

ひろば開設後は、スタッフみんなで協力し撤収作業をしましょう。作業にあたっては、原状復帰を基本とし、「来た時よりも美しく」なるよう心がけましょう。

また、スタッフみんなで「ひろば開設時」の状況を振り返り、よかった点、改善が必要な点などについて共有し、次回以降の取組に生かすことも重要です。振り返りにあたっては、参加親子や生徒へのアンケートも有効です。

なお、会場設営と同様、学校の協力のもと生徒も参加し、効率よく撤収作業をしている例もあるようです。

開設後の対応例	
撤収作業	<ul style="list-style-type: none">・原状復帰を基本とし、「来た時よりも美しく」・戸締り、忘れ物などにも注意
振り返り	<ul style="list-style-type: none">・よかった点、改善が必要な点などをスタッフ間で共有・参加親子や生徒へアンケートを実施しフィードバック

第5章 事例紹介

地域の自主的な取組として学校内子育てひろばを開設している事例を参考に見てみましょう。

1 周南市立住吉中学校（平成30年度）の取組例

実施主体	すみよし応援隊（学校支援ボランティア）
構成メンバー	住吉中学校学校運営協議会、今宿小学校学校運営協議会、周南市（次世代支援課、健康づくり課、学校教育課）、地域の有志など ※ アドバイザーとして子育て支援団体「周南地域子育て支援ネットワーク虹色ねっと」が参画
授業との連携	有（全学年、家庭科授業を活用） ※ すべての生徒を対象
開催回数	年3回（6月、10月、1月） ※ 1月は乳幼児親子の確保が困難だった
開催時間	10：00～11：30（授業時間は10：50～） ※ 乳幼児の集中力が続く午前中、1時間半
開催場所	体育館 ※ 各学年70名程度の生徒が参加することを考慮
実施内容	歌遊び、紙芝居、バルーンアート、折り紙、手型うちわ作り、手作りおもちゃ遊び など ※ 地域の人に講師を依頼
物品購入	床用マット、紙、インク など ※ 基本的には学校や児童館等の物品を借用
財源	「やまぐち子ども・子育て応援ファンド」、「山口県教育会」のほか、学校も一部拠出
参加者募集	募集チラシを作成し、校区内の親子を基本に募集 ※ 事前申込必要 ※ 校区内の張り紙や配り物、戸別訪問により周知
安全対策	サポーター向け研修会（講師：元幼稚園教諭）、環境整備（床用マット、温度管理等）、保険加入

2 宇部市立神原中学校（平成30年度）の取組例

実施主体	神原中学校学校運営協議会
構成メンバー	神原校区母子保健推進委員会、見初校区母子保健推進委員会、宇部市（コンパクトシティ・共生型包括ケア推進グループ） ※ 神原・見初校区母子保健推進委員会が定期的を開催している「育児サークル」を神原中学校内に出張展開する手法で「子育てひろば」を開設
授業との連携	有（3年生、家庭科授業を活用） ※ 3年生全員を対象
開催回数	年3回（5月、7月、10月）
開催時間	10：00～11：30（授業時間は10：50～） ※ 乳幼児の集中力が続く午前中、1時間半
開催場所	体育館 ※ 3年生全員が参加することを考慮
実施内容	手遊び歌、アンパンマン体操、絵本の読み聞かせ、七夕飾りづくり など
物品購入	床用マット、おもちゃ、絵本、紙、インク など
財源	「やまぐち子ども・子育て応援ファンド」のほか、宇部市も一部拠出
参加者募集	募集チラシを作成し、校区内の親子に限定して募集 ※ 事前申込不要 ※ 世帯へチラシの配布、校区内の店舗へチラシを貼り周知
安全対策	環境整備（床用マット、温度管理等）、保険加入 ※ 定期的に「育児サークル」を開催しているため研修会は不要

学校内子育てひろば開設チェックシート

チェック項目		☑
実施決定まで	①実施主体は決まっているか。	<input type="checkbox"/>
	②実施体制の構成メンバーは決まっているか。	<input type="checkbox"/>
	③開設に向けて学校や教育委員会と調整はできているか。	<input type="checkbox"/>
企画・準備	④「対象学年、開催回数、開催時期、開催時間、開催場所、希望する内容」など学校の意向を把握して、実施内容を決めているか。	<input type="checkbox"/>
	⑤会場レイアウトは決まっているか。	<input type="checkbox"/>
	⑥必要な設備、物品を整理しているか。	<input type="checkbox"/>
	⑦必要な物品のうち借入が可能なものを整理しているか。(借入先、運搬方法、担当者など)	<input type="checkbox"/>
	⑧必要な物品のうち購入するものを整理しているか。(購入先、担当者など)	<input type="checkbox"/>
	⑨参加者に持参してもらう物品を整理しているか。	<input type="checkbox"/>
	⑩講師の依頼が必要な場合、依頼先、担当者を整理しているか。	<input type="checkbox"/>
	⑪既定予算で対応できない場合、新たな財源を確保しているか。	<input type="checkbox"/>
	⑫事前準備のタイムスケジュールは決まっているか。	<input type="checkbox"/>
	⑬事前準備の役割分担は決まっているか。	<input type="checkbox"/>
	⑭参加者の募集にあたって必要なことを検討し、募集を開始しているか。(定員の有無、事前申込の要否、校区外からの参加の可否、子どもの対象年齢、募集方法など)	<input type="checkbox"/>
	⑮必要に応じてスタッフ向け研修を実施しているか。	<input type="checkbox"/>
	⑯環境面での安全対策を検討・実施しているか。	<input type="checkbox"/>
	⑰必要に応じて食物アレルギー対策を検討・実施しているか。	<input type="checkbox"/>
	⑱緊急時に備えた役割分担や連絡先リストを整理しているか。	<input type="checkbox"/>
	⑲参加者は必要な人数集まっているか。	<input type="checkbox"/>
	⑳参加者及びスタッフはレクリエーション保険に加入しているか。	<input type="checkbox"/>
	㉑当日のタイムスケジュールは決まっているか。	<input type="checkbox"/>
	㉒当日の役割分担は決まっているか。	<input type="checkbox"/>
	実施当日	㉓会場設営はできているか。
㉔撤収作業はできているか。		<input type="checkbox"/>